

国際サーカス村通信 Vol.22 No.02	2017年11月10日(金)
	文責 西田 敬一
編集 NPO 法人国際サーカス村協会	〒376-0303 群馬県みどり市東町座間 41-1
Tel 0277-70-5010 Fax 0277-97-3688 <a href="http://www.circus-mura.net">http://www.circus-mura.net</a> <a href="mailto:k-nishida@accircus.com">k-nishida@accircus.com</a>	

## ● 総会のご案内

- 期日 2017年11月27日(月)午後5時～
- 場所 国際サーカス村協会・東京事務局/TEL03-3403-0561/メール [k-nishida@accircus.com](mailto:k-nishida@accircus.com)
- 議題 平成28年度 事業報告・収支報告(別紙)  
平成29年度 事業計画
- ※同封ハガキにてご出欠をご連絡ください。

## ●28年度の事業報告

本年度の顕著な活動としてあげられるのは、サーカス学校の本格的な公演が継続し始め、また新しい仕事の依頼が増えていることだろう。

富士見市民文化会館キラリ☆ふじみでのイベント「サーカス・バサール」には6年続けて参加し、また、長野県佐久市のフェスティバル「キッズサーキット in SAKU」には2年連続で参加。さらに、本年度初は東京都足立区の「ギャラクシティ」でのイベントと練馬文化センターでのイベント「森と劇場のサーカスフェスタ」、雲南市の「桜まつり」など、それぞれ特徴のある行事に参加することができた。

特に、練馬文化センターの行事は練馬区独立70周年記念事業で、サーカス学校の公演のみならず、公園での大道芸ショーや小さな人形のパレードなど、幾つかの出し物の企画を当協会に依頼があり実施できた。この催事は次年度も行える可能性があり、ほぼ全面的に当協会に依頼されたものなので、今後の大きな成果になる可能性がある。

当協会としての実績が認められつつあり、さまざまな公演の依頼が、単にサーカス学校の生徒、卒業生を派遣するだけでなく、企画段階から参加できるようになっている行事・イベントが多くなっているのは、サーカス学校としての実力が認められつつあるといえるのではないかな。

また、このほかにも地元群馬県下のイベントには相当数、参加しているし、地元のドライブインなどでの自主的なパフォーマンスを見ての依頼もあり、そのことを地元の方々が喜んでくれるという関係も生まれている。

一方で、サーカス学校に入学する生徒が増えないという大きな問題を抱えていることも座視できないところである。

## ●29年度の事業計画

サーカス学校、協会への仕事の依頼が増え、いわゆる認知度は大きくなっているのだが、問題は、学校への入学者が少ないことである。

サーカス学校の練習はそれなりに厳しい上に、ここみどり市東町沢入に移り住んで自炊しながら身体を作りサーカス技を身につけるといのは、やはりある種の覚悟、しっかりとした信念が必要なのだが、そうした気持ちを、若い人が持つことが難しいのかもしれないと感じている。

これを当協会・学校の問題として捉えかえすのは、正直、大変難しいと考えている。例えば、すでに学校設立当時に比べて、練習のレベルはかなり低くなっているのだから、これ以上下げてしまえば、ここサーカス学校に来て練習する意味そのものがなくなりかねない。

いかにすれば、生徒が多く集まるか。ホームページ、パンフレットなどで、当協会・学校の広報活動を行っているが、反応は必ずしもよくない。さまざまな公演活動などで高く評価されているにもかかわらず、一緒になって学び働こうという若者が現れないことには、正直、打つ手がない状態である。

本年度後期が始まる30年4月段階での入学者が期待できない場合のことも考えなくてはいけないので、そのような状態になれば、サーカス学校の練習場である、市から借り受けている体育館を、パフォーマーの練習場として活用できる場として生かしていくようにしていきたいと考えている。

また、本年度後期には、さまざまところから企画依頼、公演依頼があるものと思われるので、その場合は、在校生のみならず卒業生や他のプロのパフォーマーの参加を求め、当協会の仕事として取り組んでいきたいと考えている。

### ★★ サークス学校 17年度前期発表会 開催のお知らせ ★★

2017年12月16日(土)と17日(日)両日とも13時30分開演。

会場；沢入国際サーカス学校 体育館 〒376-0301 群馬県みどり市東町沢入491

電車でお越しの方 最寄り駅；わたらせ渓谷鉄道「沢入(そうり)」駅下車、徒歩10分

\*打ち上げご参加ご希望の方、宿泊をご希望の方は、あらかじめ西田までご連絡いただきますようお願いいたします。

☎090-3008-7738 もしくは メール k-nishida@accircus.com (どちらも校長・西田) まで

### ★★ サークス学校 17年度後期 授業開始日は2018年3月19日です ★★

発表会が終わり次第、新学期開始まで冬季休業期間となります。

体験入学希望者、入学希望者は、年内は12月中旬まで、それ以降は新学期が始まってからの日程で、ご予約ください。ご連絡は、上記連絡先までご連絡いただきますようお願いいたします。

## ● 新たな公演活動へ踏み出す



←「ひとミュージアム  
上野 誠版画館」中庭  
にてワークショップ

サーカス学校開校 17 年度に入り、地元の朝市やひまわり祭、保育園など、いつもながらのショーに加えて、「まちなかフェス」（茨城県水戸市・ぽこブヨ〜ダンの木村ご夫妻の紹介）、”ひと・ミュージアム”（長野県長野市）、「川中島フェスティバル」（長野県長野市）、そして「めぶくフェス」（群馬県前橋市）などなど、より本格的なサーカス公演が増えてきた。特に「川中島フェスティバル」を紹介してくださった“ひと・ミュージアム上野誠版画館”の田島隆さんとの出会いは、サーカス村協会・サーカス学校にとってとても有意義な出来事であり、この個性的な美術館という場を提供していただいたため、演出担当の田中健太（沢入国際サーカス学校卒業生）は、より創作性の強い内容のものを考えることができたのではないかと思う。

田島隆さんとの出会いは、3 年前に“サーカスはリヤカーに乗って”の活動で、長野県・長野駅前の反原発金曜日行動に参加した時である。このデモの後の食事を兼ねたミーティングで、参加者がお互いに自己紹介を行なった。その後、田島氏を含めてその場で紹介された方々に会報を何回かお送りしていたのだが、ある時、「いままでサーカスに関心はなかったが」という書き出しで始まる、氏からのお手紙が届いた。

そこから“ひと・ミュージアム”での公演の話が進み、と同時に、氏が自分のミュージアムでは入場料しか払えないので、川中島フェスティバルに話をしてみるということになり、10 月 14 日に“ひと・ミュージアム”で、15 日に「川中島フェスティバル」での公演というスケジュールで、経費を捻出することができた。

館内での公演を行った 14 日は曇り、ところが 15 日は午前中にかなりの雨が降るというコンディションで、フェスティバルの野外公演は、一旦中止になったが、とにかく雨をしのげる場所や、小雨なら練り歩きでも、とにかくできることを何かやりたいという健太の希望で、お客とのグリーティングを行い、予定の公演時間よりも早くなったが 1 回だが公演を行うことができたので、実行委員会の方々にもある程度納得してもらえたのではないかと。

それにしても、“ひと・ミュージアム”の公演ではいろいろなことを考える材料をいただくことができたし、演出をした健太がストーリー性のある作品を作ろうと、手書き文字を書いた画帳を使ったり、使用するある曲のリストを模造紙に書いて会場の壁に貼るとか、いろいろな工夫をすることのできる場を提供してくれたという意

味でも、実にありがたかった。このミュージアムの庭に、久しぶりに“サーカスはリヤカーに乗って”のリヤカーを置き、そこから何曲ものプロテスタントソングを流すことができたのも、ひとつの成果と言えるだろう。

こうした公演ができたのも、このひと・ミュージアムは上野誠の作品を展示する美術館だが、「同時に音楽会や講演会などを催し、地域における芸術・文化のたまり場になりたい」という田島さんらの願いがあったからであろう。それでもサーカスショーというのは、ジャグリングではモノを投げ上げるし、その他の芸にしても、演技中に道具が激しく転がっていったりするミスがないわけではないので、その結果、壁にかかっている版画作品を傷つけないとも限らないことを考えれば、“ここでサーカスをやろう”と決断するのは相当の勇気が必要だったのではないかと、ぼくは会場を見ながら田島さんの決断に脱帽していた。そしてぼくらは、自分たちのサーカスショーをどんな場所でどのように見ていただくか、常々、考えていかなければならないことを心に留めるきっかけをいただいたのであった。

この“ひと・ミュージアム”の展示作品の多くは、川中島の出身の故上野誠の版画であり、上野誠が影響を受けたという、ドイツの有名な版画家であるケーテ・コルビッツの版画も何点か飾られている。

館長の田島隆さんがなぜこの美術館を作ろうとしたか。一言で言えば、その版画に惚れ、しかも上野誠が同郷のひとであり、田島さん同様、核兵器廃絶、世界平和の実現、人権尊重を生涯かけて願ったひとであったからで、しかも地元でさえ彼の版画を知るひとが少ないことに心を痛めたからにちがいない。詳しくは“ひと・ミュージアム”の「ひとぶっくす N02 ひとミュージアムがめざすもの」を入手して目を通していただきたい。

サーカスショーの公演後、庭でワークショップを行ったところ、人数は多くなかったが子供から大人まで参加した姿を見ていて、この美術館が普段から地元の人々との交流を深めていると感じることができた。また、夕食におでん、田島夫人が作られた数種類のお漬物、ワインに日本酒という歓迎を受け、楽しく歓談できたことから、サーカス学校の生徒たちも、ひととひととの交流を感じたのではないか。少なくとも、ぼくは田島ご夫妻がこの美術館とここを大切にしている人々とともに生活し、日々、ひととの時間を大切に過ごしていらっしゃる姿に感銘を受けた。

この会報が届く頃、田島さんは、中国に渡っているかもしれない上野誠の一枚の版画を求めて、北京に足を伸ばされているはずだ。その願いが叶うことを願ってやまない。

#### ★ひとミュージアム

長野県長野市川中島町今井 1698

TEL 026-283-2251

<http://hito-art.jp/>

開館時間；午前 10 時～午後 5 時 休館日；火曜日（休日は営業翌日休み）年末・年始

入館料 大人 500 円 高校生以下 300 円 団体 400 円

#### <前橋めぶくフェス>に参加

11月3,4,5日の3日間、群馬県前橋市中心にある商店街で行われた“前橋めぶくフェス”に参加。私たちは4,5日に各3回、中央イベント広場のステージでサーカスショーを行った。4日は特に風が強く、ステージ上に立てたパネルが倒れかかるなどのアクシデントに見舞われ、寒さもあって客足は今ひとつだったが、両日とも家族連れには大人気であった。特にDUO ABのコミックアクトには笑いが絶えなかった。

この“めぶくフェス”にサーカス学校を呼んでくれたのは、このフェスの実行委員会のメンバーのひとりで、舞踏家で“身体の芸術推進実行委員会”の山賀さんだ。

山賀さんは富士見市民文化会館キラリふじみの“サーカス・バザール”を見に来てくださり、今回の“めぶくフェス”に推薦してくださった。山賀さんは、このフェスにもっと「身体表現＝身体の芸術」を生かしていきたいとの考えから、アーツ前橋館長にアピールしてくださったようだ。

この前橋市中央商店街は残念ながら活気に乏しいというか、ここに買い物に見えるお客は多くないようだ。屋根は高くアーケードの道幅も広いので、お客が少ないと、どうしても屋根の下、通路との空間が目立ってしまう。フェスの最中はこの通路幅の広さを生かして、通路の中央にさまざまな出店があるので、それなりの活気が感じられたが、それでも屋根の下の空間はなんとなく寂しげであった。お祭りの最中だけでも、この空間を生かすことができないかを感じる。



この通路を往復しながら公演をしたムンドノーゴぼこブヨ〜ダンは大人気であったが。

シングルトラピーズ（小一丁ブランコ）やエアリアルティシュー（天井から吊るしたロープの代わりに布を使った演技）などに加えて、その演技の視覚を遮らない装飾の吊ものを飾ることができるのではないかと、勝手にイメージを膨らませていた。

サーカスショーを行ったイベント広場のメインは出店の“食”で、吹奏楽やガムランの演奏（両方とも4日のみで1回だった）、それに僕らのサーカスショー（両日3回、計6回）であった。

さて、“めぶくフェス”のチラシには、フィジカル・センセーションのくくりで、ぼこブヨ〜ダンとサーカスショーが紹介されていたが、子供たちがメインのお客になるはずなので、もう少し、子どもたちを意識したアピールをしてもらえればよかったのかもしれない。以上、思いつきに過ぎないのだが、今後の催しの参考にしてもらえればと思い、無駄口を叩いてしまった。

←SHADAI 君のシルホイールの演技。

とはいえ、このアートというかアーツというかゲージツというか芸術というか。創造活動、遊び、想像にひとつの力点を置いた街活性化の“フェス”は多くはないと思うので、なんとかこの方向は外さずに、アイデアを出し合って次回の企画を立ててもらいたいと思う。

もちろん“フィジカル・センセーション”つまり“身体の爆発”的なものはよりラジカルな形で生かしてもらいたいし、フィジカル、つまり身体としてそれを生かすジャグリング教室やアクロバット教室を、この期間に行うこともできるのではないかとも思えた。

\*

以上、この時期に行ったいくつかの公演について気になったこと、考えたことを書いてみた。何か確固としたものを掴んだということではないが、今後の自分たちの公演のあり方について、少しでもより内容のあるものにしていくために参考になればと考えてのことである。

●モンゴルで初めての現代サーカスショー” JURTE” を観て （長屋あゆみ）

2017年11月5日（日）モンゴルの首都ウランバートルへ渡り、あるショーを観てきました。モンゴルのサーカスカンパニー“ANGELS”（エンジェルズ）の10周年記念で、モンゴルで初めての現代サーカスショー” JURTE”（ジュルテ）のお披露目、また、エンジェルズ代表のオルギルボルド（以下、オリゴ）さんの母であり、社会主義時代に活躍した著名なコントーションニストのひとり、エンフツェツェグ・ロドイさんのパフォーマー人生45周年記念を併せた大きなショーでした。



出演者は総勢120名。その中に日本から、沢入国際サーカス学校を卒業した我らが油布直輝君が招待されました。油布君は2015年にウランバートルで開催された国際サーカスフェスティバル”The 1st International Youth Circus FESTIVAL”出演から、2回目の訪問です（詳しくは2015年11月5日発行Vol.20 No.1「サーカス学校在校生 油布直輝（ゆふなおき）くん、モンゴルへ」をお読みください）。シルホイールをゴルフバッグに詰めた油布君と一緒にモンゴルの地へ渡りました。ほかにもアメリカからゲスト出演者が数名出演していました。

ショーの会場はサーカス劇場ではなく、高級ホテル内にある劇場。1,000席の客席と、モンゴルで最新の音響、照明設備を備えているとのことで、広い舞台に高い天井、ぐるぐる回る照明や、巨大なスクリーンに映像を映し出したりと大変立派な劇場でした。



↑（左）ウランバートルに到着すると、一気にマイナスの世界でした。ウランバートルの”ボヤント・オハー”空港を背に油布直輝君。（右）ショー本番、演技中。



↑ (左) 会場を客席後方より撮影。モンゴルにこんな劇場ができたなんて…！資本が気になるところです。

(右) およそ 100 名によるコントーション。背景には花が開花していく様子や花びらが舞い散る映像が映し出されています。

さて、今回のショーはただの記念公演ではありません。フランスのサーカス学校をモンゴル人で初めて卒業したという当グループ代表のオリゴーさんが、新しい試みのショーをつくったので観てもらえないかと、当協会代表の西田に連絡がきたのが始まりでした。これまで社会主義時代から大きく変わることなく続いてきた伝統的なスタイルのモンゴルサーカスを、現代サーカス風にアレンジしたというので興味を持ちましたが、西田は沢入国際サーカス学校の公演と日程が重なっていたため、代わりに私を派遣したのです。

その現代サーカスショー” JURTE” ですが、オリゴーさんが説明してくれた通り、ひとつひとつの演目を並べて司会者が紹介しながらオムニバス形式で進めていくのではなく、演目と演目を関係づけながら、つなぎの部分も出演者たち全員で演技をしながら道具の出しハケをしたりして、サーカス芸だけでなく歌やダンス、民族音楽、詩の朗読などを組み入れ、ノンストップで流れるように構成していました。

秀逸なのは、スタイルは現代サーカス風なのですが、民族色を色濃く出すのは今までどおり行っていることに成功していたことです。例えば、舞台上に本物のゲルを持ち込み、出演者たちが建てて、遊牧民の生活の様子を演じたり、中に入って隠れたり、また出てきたり、ゲルの上で倒立をしたり、最後は解体したり…ということをして、出演者たち全員で動きをそろえ、民族舞踊を踊ったり、ホーミーや馬頭琴、口琴など民族楽器の曲（奏者が現れて生演奏になることも）とともに展開していくのです。背景の巨大スクリーンには、草原を駆ける馬群、青空と山々、煙突から煙が出ているゲル（モンゴルでは温かい家庭を連想させます）、宗教的な儀礼の様子など、「まさにモンゴル」といったわかりやすいイメージで、美しい風景が映し出されていました。



↑ 民族衣装を着て遊牧民に扮した出演者たちがゲルを建てていくのを見せる。上手には琴奏者が演奏。

巨大なスクリーンに映像といっても、「最新の技術を駆使した照明や映像自体を見てほしい！」という類ではなく、アクトのイメージをゆったりと映し出していくので、パフォーマンスの邪魔にはならず、映像にばかり集中してしまうこともなく、それどころかアクトを理解するための一助となっており、とても観やすかったです。「こんな景色の場所に行ってみよう」とモンゴルへ実際に足を運ぶ人も増えるのではないのでしょうか。憎い演出でした。ひとつひとつの演目は技術が高く、また、大勢で行うものが多かったです。そして出演者は若い子たちが多くて元気がよかったですのも好印象でした。



↑パフォーマンスもしっかり行っています。

一方、お母さんの45周年記念の方のコントーションのアクトも度肝を抜かれる、なんとも壮大なものばかりでした。コントーションだけで8演目ほどあったのですが、まず、100名程でいっせいにいうという演目。100名といっても全員がプロというわけではなく、プロでやっている子たちが半分、もう半分は卵の子たちでしたが、演出をしたエンフツェツェグさんが「モンゴルのコントーションを見ていてあるときふと感じたのですが、大自然からのエネルギーやパワーを受け、壮大で美しい自然の法則が私たちの身体の中でも動いているように感じるので」というような発言がまずあり、アクト中の背景には花が開いていく映像が映し出されるのとあわせて子どもたちが立ち姿勢から後屈していきブリッジになったりと、ゾクッとする瞬間が多々ありました。

また、今年の10月に南ゴビで開催されたというモンゴル国内の若い子たちのサーカス大会で優勝した8名でのアーチェリーコントーションは、モンゴルに数あるコントーションの演目の中でも技術が高かったです。



↑片手倒立で、または組み技でアーチェリーをして、次々と的に当てていきます。



今回改めて感じたのは、やはり、モンゴルのコントーションは美しいということです。技術が高いのはもちろんそうなのですが、柔らかさをみせることに対する美学が抜きん出ています。例えば、アーチェリーをする場合も、矢を射った後に足を伸ばしてしばらく静止するんですね。ほかの国のコントーションистは、矢が的にあたるとパッとおりてしまう人が多いです。また、ポーズとポーズの流れも「柔らかくてすごい！」というよりは、「なんて美しいんだろう」とため息が出てくるような、そんな印象を与えてくれるんです。それもそのはずです。モンゴルではコントーション（曲がり、歪み）ではなく、「オランノガラルト」（「曲がる芸術」）なんですよ。腑に落ちます。

また、1957年生まれで現在は60歳の元コントーションист、エルデネチメグさんや、55歳のオリゴーさんのお母さん、40歳のセルチマーさん等のパフォーマンスにも驚きました。モンゴルサーカス関係の文献で、「社会主義時代にモンゴルで初めて2名で行うコントーションの演目をつくり、活躍したモンゴル人コントーションист〇〇」といった説明文で、白黒写真やセピアがかかったいかにも古めかしい画像や映像に出てくるようなみなさんが、目の前でパフォーマンスをしているんです。身震いしました。まさにモンゴルでしか観る事のできない貴重なショーだったと確信しています。

が、これが面白いというか残念なのですが、今回のショーは地元のモンゴルの人たちの興味関心をまったくひくことができなかったというのです。〈次号へ続く〉



←1970～80年代、現役で活動していた頃に使っていたというテーブル（木製。モンゴルの伝統的な彫刻模様がほどこされています）と衣装で登場し、パフォーマンスをしたエンフツェツェグ・ロドイさん（55歳）

↓グランドフィナーレ



## サーカス公演情報

### ★木下大サーカス

●沖縄公演 公演期間 2017年12月15日(金)～2018年2月26日(月)

●休演日 毎週木曜日と12/31(日)、1/10(水)、2/14(水)。ただし1/4(木)は開演。

●会場 豊崎タウン 特設会場(豊見城市 豊崎美らSUNビーチ手前)

●電話 沖縄公演事務局 TEL098-860-0045(12/11迄) ●ウェブサイト <http://www.kinoshita-circus.co.jp/>

### ★ポップサーカス

●埼玉公演 公演期間 2017年12月16日(土)～2018年2月18日(日)

●休演日 毎週木曜日と12/22(金)、12/31(日)、1/10(水)、1/12(金)、2/9(金)。

ただし12/28(木)は開演。 ●会場 モラージュ菖蒲 大テント

●電話 埼玉公演事務局 TEL0480-48-6955 ●ウェブサイト <http://www.pop-circus.co.jp/>

### ★ハッピードリームサーカス

●神戸公演事務局 10月20日(金)～12月11日(月) ●休演日 毎週水曜日

●会場 イオンモール神戸北H駐車場 大テント特設会場

●電話；神戸北公演事務局 TEL078-986-0411 ●ウェブサイト <http://www.dreamcircus.jp/>

### ★野外民族博物館リトルワールド 『ポルトガルサーカス』

優雅に宙を舞う空中リング、高さのあるバランス芸ローラーバランス、狭いスペースを高速回転するスケートアクロバット、そしてハンドトゥハンドやジャグリング、コントーションなどの地上芸の数々と、見ごたえのあるナンバーにより構成したオリジナル・サーカス・ショーを披露いたします。ポルトガルの民族歌謡・ファドに身を委ねて、お洒落で美しいひとときをお楽しみください。入園者は観覧無料です。

●期間：2017年9月9日(土)～11月19日(日) ●休演日：毎週火曜日

●時間：平日 11:30/14:00、土日祝 11:00/13:00/15:00 ●電話 TEL0568-62-5611(代表)

## その他公演情報

### ★Takeshi and The Escargots “S-CARGO A GO-GO” エスカルゴ・ア・ゴゴ

●出演者 シルヴレノアレックエレジャポネーズ ●チケット取扱 テアトルフォンテ TEL045-805-4000

●日時 2017年11月23日(木祝) 14:00開演(開場は30分前) ※全席指定、未就学児入場不可

●料金 一般；2,000円 フォンテチケット；1,800円 友の会割引；1,600円 学生割引；1,600円

●会場 横浜市泉区民文化センター テアトルフォンテ ホール

### ★パントマイムライブ ゴールデンハーフスペシャル その1 チカパン 加納真実 ～赤と青の年末大掃除！～

大道芸の女王 加納真実と こどものアイドル チカパンによるハーフ&ハーフのシェアライブ!

●日時 2017年12月16日(土) 19時開演・17日(日) 13時/17時開演

●料金 3,000円 ※予約制 ●会場 スタジオエヴァ(JR「新大久保駅」より徒歩3分)

●ご予約・お問い合わせ ゴールデンハーフスペシャル実行委員会

①お名前 ②日程 ③枚数 ④ご連絡先をご記入のうえ、メール [info\\_ghs1@yahoo.co.jp](mailto:info_ghs1@yahoo.co.jp) をお送りください。

※返信をもって予約完了となります。